

紙芝居「原爆の子さだ子の願い」の上演が、中高生を巻き込んで世界へ広がっている活動をご紹介します。

平和への想いを次世代へつなぐ安芸府中高生 ～英語版 紙芝居「原爆の子さだ子の願い」～

レポーター ひろ記者 津森正裕、高村秀樹

広島県立安芸府中高校では、2015年から、地元の中学校の生徒と一緒に8月6日に平和公園で佐々木さんの生涯を題材にした紙芝居を上演しています。長年、この紙芝居を日本語と英語で上演して



▲(左)小柴浩美さん(右)中村由利江さん

紙芝居地元の方と一緒に「英語版」を作成

平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデル佐々木禎子さんを題材にした紙芝居「原爆の子さだ子の願い」をご存知でしょうか。

府中町在住の中村由利江さんがこの紙芝居に出会ったのは20数年前。府中公民館で紙芝居を手にした中村さんは、2000年に平和記念公園で紙芝居の上演を始めます。観客の中に外国人が増え、中村さんは「英語版」も作ろうと、地元で国際交流活動をしている小柴浩美さんに相談。趣旨に賛同した小柴さんが翻訳した「英語版」の紙芝居を2002年から上演を始めます。

高校が地域の歴史、文化をつなぐ

活動を続けていた二人は、この活動を次世代へつなぐことも大事と地元の中学校に相談。2011年から地元中学校の生徒と一緒に上演することに。さらに、英語版では高校生レベルの語学力が必要と、国際科があり、いろんな取組に積極的な県立安芸府中高校に相談。高校は快く受け入れ、2015年から紙芝居ボランティアとして上演に参加してい

ます。さらに、高校は2022年度から紙芝居活動を国際科第1学年の学校設定科目として導入しています。まさに、地元の活動、歴史・文化を高校がつなげています。お二人は授業も指導されています。新しいテーマに取り組む高校の姿勢に、小柴さんは「この高校の国際科1年生に入りたいくらいです。」

みやもとこう あ しんかわ か えら あおき ま や
宮本洗亜さん、新川嘉楽さん、青木真耶さんSNSを活用して海外にも配信

「平和の大切さを深く感じる。」「広島の若い我々が平和のたねになりたい。」「全国では、8月6日を知らない若者も少なくない。この紙芝居を通して全国の若者に平和の大切さを発信したい。」と高校生の皆さんは取組に積極的です。

7月には、インドネシアとフィリピンの生徒にオンラインで紙芝居を披露。研修旅行でカナダを訪れた際にはホストファミリーに紙芝居を披露。今後は、「SNSを活用して世界に発信していきたい。」とも。

広島で開催されるG7広島サミットでも何らかの形で彼らの活躍を見たいと思いつつ校舎を後にしました。

「ひろ記者」とは、市民自らが地域のまちづくり活動やイベントなどを取材し発信していく、広島市の市民レポーターです。

▶<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/14/7197.html>



▲前列左から 宮本洗亜さん、新川嘉楽さん 後列 青木真耶さん

らしくコラム

Rashikku column

平和を語る「ことば」の力

この文を書いている10月初旬、清々しい秋の青空が天高く眼前に広がっている。しかしこの空の遥か西方で、ロシアがウクライナを侵略し、ウクライナが反撃に転じている。今なお激しい戦闘が続き、押し込まれたロシアは核での脅しをちらつかせている。ほんの数日前、この同じ空の北方を北朝鮮の弾道ミサイルが通過し、この空の南方では、中国による尖閣諸島海域への侵入が常態化している。今夏、日本の元首相がこの日本で暗殺された。「平和」の文字が震んでいく。激烈な現実世界を前に、呑気に平和を口にすることが気恥ずかしくさえ思えてくる。

平和。あるひとつのことばの意味は、また別のことばとの「対比」によって形作られる。平和とは、単に社会や心が穏やかな状態だけではなく、戦争がない状態、暴力がない状態であることを内包し、戦争や暴力を前提にして存在することばだ。つらいがそれがほんとうだ。

その一方で、ことばは現実とは切り離された存在でもある。ことばは現実世界をそのまま複写するものではなく、人間によって任意に認識され任意に表現されるものでもある。「ことば」は漢字にすると「言葉」と書かれ、たくさんの単語の集まりといった意味を感じさせるが、実は「事の端(ことのは)」が語源であり、事実のほんの端っこしか表現できないものが「ことば」だというのである。せつないがこれもまたほんとうだ。

だがしかし、つらくせつない、これらことばの存在は、裏を返せば、我々を自由にする可能性を秘める。なぜか。

ことばには意味が存在するが、発話されたことばには同時にその発話の「意図」が存在する。意図とは、なぜそのことばを発するのか、その目的のことである。平和を希求する我々は、その意図のもとに、た

とえ現実世界とは遠くかけ離れていても、ことばを駆使してもうひとつの理想世界を構築することができる。これがことばによって我々が自由になれる理由だ。もちろんそこに用いられることばは「平和」だ。現実がどうであろうと、我々は理想を語ることができる。我々が理想とする世界をことばによって描き出すことができる。

今朝、今年のノーベル平和賞にウクライナの人権団体が選ばれたとの報が届いた。すでに多くの議論に採られている。平坦な道ではない。ノーベル財団もまた平和の理想を語っている。彼らのことばにも確かな意図がある。

もちろん我々がことばで表現できるものも理想の事の端にすぎない。だからこそ事の端を集めてまことの理想を構築するために、平和のことばを語り続ける。少しずつ明確になる理想を道標として、我々は実現のために歩みを進め、いつか清々しい青空のごとき平和を眼前に仰ぐ。そしていつか、その「平和」の文字が対比する「戦争」や「暴力」とともに消え去ってゆく日が来るまで、平和を語り続ける。おそらくは永遠の戦いとなるだろう。だからこそ語り続ける理由がそこにある。



Profile

安田女子大学 教授
川岸 克己

学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。文学修士。清泉女子大学、法政大学などを経て、現職。日本語学、言語学、言語理論。



公民館へ

～安芸区内公民館～

地域のみなさんの学習活動を応援する最も身近な施設「公民館」でまちづくりに関する活動をしているグループをご紹介します。

1 船越誰故草保存会

船越公民館

『藝藩通志』に鎌倉時代末期、藤原為兼が春の日に安芸国船越の大江谷にさきよい、この花のところせまく咲きたるを見て、「かいる花の、けうとき山ふとくに、たれ故に開く、うらむらさきの、ゆかりの色には咲出るよ」とつぶやいたことから「誰故草」の名が付いたと言い伝えられています。植物学者の牧野富太郎博士が「誰故草」という古来からある名前を知らずに、「エヒメアヤメ」と命名した所から一般にはこちらの名前が使われています。「誰故草」は船越の地では大正時代に絶滅したとされています。

昭和48年、船越町(現在の広島市安芸区船越)はこの伝承を後世に伝えようと町花に選定。「船越町誰故草保存会」は昭和54年7月に結成され、誰故草復活の取り組みを始めました。保存会結成から40年を超え、活動内容も「誰故草の復活」から「自生地復活」に展開し、船越公民館などと連携しながら、地域ぐるみによる誰故草の育成・普及を図り、まちづくりの活性化に努めています。

具体的な取り組みとしては、誰故草の育成、開花に合わせて開催する誰故草まつり、地域の中学校などへの誰故草の移植、船越公民館まつりへ参加して活動のPR等を行っています。



2 瀬野川流域郷土史懇話会

瀬野公民館

瀬野は西国街道時代、間の宿として栄え、山陽本線の糸崎-広島間開通と同時に、急勾配「セノハ」の後押し専門の瀬野機関区が誕生。以後「瀬野は鉄道村」として全国に知れ渡った。

平成15年に設立。常時活動している15名の会員と賛助会員80名で活動しています。

定例会日 毎月第2土曜日

活動は、地域に埋もれた歴史的資源を掘り起こし、地域での伝承に取組んでいます。会員相互で調査研究した成果を、保存、継承するためにデジタル化すると共に、本として出版しています。

主な物は、DVD「上り勾配」。写真集『瀬野に

機関庫があった』、『瀬野の歴史と文化』(第一部、第二部)等を出版しました。

また地域の皆さんと密着し、郷土の歴史を知ってもらうために、中、小学校他諸団体に「瀬野の歴史と鉄道」他の出前授業、史蹟めぐり「瀬野まち歩き」、「郷土史講演会」等を開催しています。

しかし、会が発足して20年が過ぎ、会員の高齢化が進み、会の集大成として『瀬野の歴史と文化』を発刊し、若い世代に引き継ぐ時期が近づいて来ています。

歴史に興味がある、歴史について勉強してみたい若い男女の方に入会していただき、新しい会として継承してもらえたと期待しています。



瀬野の歴史と文化

3 太極拳安芸中野ひまわり

中野公民館

私たちは中野公民館で活動を始めて27年以上になります。毎週金曜日午後2時～4時まで。1ヵ月4回。始めた当初からの方や今年入会された方まで、幅広い経験年数の方がおられます。皆さん共通して言える事は「元気な体で過したい」です。農家の方、パート勤めの方、ボランティアをしながら、孫育てを手伝いながら、親の介護をしながら。その合い間で一週間に一回2時間だけ、自分の健康の為に時間を作って活動しています。

太極拳は有酸素運動です。ゆっくりとした動きなので心臓の鼓動が早くなったり息を切らしたりすることはありません。逆にゆっくり動く事によって筋力がついたり、バランス能力を高めたりする事ができます。そして続けているうちに少しずつ転びにくい体になっていきます。それから、太極拳は心を落ち着かせるという良さもあります。ゆっくりとした動きと呼吸が結びつき心が自然と落ち着いてきます。興味のある方、是非一度見学においで下さい。



4 阿戸町クロリティ同好会

阿戸公民館

“クロリティー”ってご存じですか。

“クロリティー”は、アメリカで人気の高い歴史のあるゲーム“ホースシューズ”と日本の伝統的な輪投げをミックスして考案されたニュースポーツです。この競技の特徴は、リング(輪)が目標棒に入らなくても、リングの一部がボード(得点盤)内に

あれば得点になることです。このため子どもから高齢者まで幅広く楽しむことができます。

阿戸町クロリティ同好会は、クロリティーを通じて会員のコミュニケーションと健康維持を図り、楽しく触れ合うことを目的として、毎月第1、3土曜日19:00～20:00に阿戸公民館のホールに集い、楽しく活動しています。現在の会員は男女合わせて10名。

メンバーの一投に歓声が上がリ、日ごろの運動不足の解消になっています。また、安芸区の老人スポーツ大会や広島市老連交流大会等にも出場し、入賞するなど活躍しています。

興味を持たれた方は、まずは体験に来てください。未経験者の方、歓迎します。お待ちしております。



5 矢野町花ボランティア

矢野公民館

「矢野町花ボランティア」は、矢野公民館を拠点に活動している園芸グループです。

主な活動として、矢野公民館の花壇で季節ごとに花の植え替えや雑草取りを行い、会員内で水やりのスケジュールを組んで花の世話をするほか、公民館主催の園芸講座の際には学習者として参加することもあります。先日矢野公民館で開催された花と土づくりの講習会では、会員同士で花育成のわからないところについて質問を出し合い、学びつつ楽しい交流機会になりました。

また、夏と冬の年に2回、矢野公民館で種から育てた花の苗(夏はジニアやケイトウ、冬はノースポール、ピオラなど、開花時期が長く育てやすい花)を地域の方へ配布するほか、安芸区役所の花壇整備を行うなど、矢野以外の花づくりもしています。

毎月第3水曜日の午前9時から11時くらいまで、矢野公民館に集まって花壇の手入れと交流会を行っているので、興味のある方は矢野公民館へご連絡ください。



グループへのお問合せについては、各公民館へお願いします。

- ① 船越公民館 ☎082-823-4261
- ② 瀬野公民館 ☎082-894-8006
- ③ 中野公民館 ☎082-893-1234
- ④ 阿戸公民館 ☎082-820-8222
- ⑤ 矢野公民館 ☎082-888-0044

さまざまな分野の達人たちが登録しているまちづくりボランティア人材バンク。
地域活動やまちづくりのお手伝いに、
今日も、あなたのまちを達人たちがおうかがいしています。

英会話講師／フィリピン文化講習／ポップスシンガー **山出 ベベさん**

母国フィリピンをはじめ、多国籍文化を広めながら日本の魅力も発見 心と心で繋がると言葉の壁は超えられる

流暢な日本語と屈託のない笑顔が印象的な山出ベベさん。YMCAで幼児を対象に英会話のレッスンとフィリピンや多国籍文化の講習を伝える傍ら、平成16年には人材バンクにも登録。公民館や小学校、老人介護施設などでフィリピンに伝わるバンブーダンスやフラダンスをレクチャーしたり、日本の伝統文化である茶道の裏千家を学び、着物姿で公民館でお点前を披露するなど幅広く活動しています。

山出さんが来日したのは平成5年。翌年にはアジア大会の通訳ボランティアを務め、人と関わる喜びや、自分にできることの気づきを得たそうです。「来日してすぐは知り合いも少なく不安なこともありましたが、自分から行動することで世界が変わりました」と話す山出さん。友だちを作りたい、みんなと楽しみたい、そんな思いからさまざまなことにチャレンジしたといいます。日本



▲子どもたちを交えて楽しむ「水辺のコンサート」の様子

語はスピーチコンテストで何度も優勝するほど。「フィリピンやいろんな国の文化を共有するためには、まず日本を知ることから始めました。日本の素晴らしい文化や言葉をたくさん勉強しました」。持ち前の明るい性格が周りの人々を巻き込み、いつしか多くの友だちに囲まれていたことは容易に想像がつきます。

そんな山出さんは、平和記念公園で開催されているイベント「水辺のコンサート」にも定期的に出演。ポップスシンガーとして見事な歌声を披露しています。音楽の世界では言葉は不要。会場が一体となりダンスも交え楽しんでいるそうで、ファンも多いといいます。

「日本の方たちは結びつきが強いと感じています。心から繋がったらとてもあたたかく接して下さる。皆さん本当に親切です」と、微笑む山出さん。「フィリピンをはじめ異文化を伝えながら、私は皆さんから日本の文化を学んでいます。世界は広いしまだまだ知らないことがたくさん。子どもの頃に異文化に触れる機会があれば刺激になるのではと思うので、これからは特に子どもたちにたくさん伝えて行きたいと思っています」と笑顔で話してくれました。



▲山出ベベさん



▲老人介護施設で披露したフラダンスの様子



▲公民館で裏千家のお点前を披露

**あなたらしく、ボランティア活動をはじめませんか！
「まちづくりボランティア人材バンク」への登録を
お待ちしております。**

自分の知識や技術、特技を生かして「ボランティア活動がしたい」、「地域社会の役に立ちたい」…しかし、いざ何かにしたいと思っても、どこで、どのように、活動の場を探せばいいのかわからないとお悩みの方はおられませんか。

そんな方におすすめの制度が「まちづくりボランティア人材バンク」です。活動の第一歩は「私はこんなボランティアができます」という情報を公開することです。そうすれば、あなたの力を必要とするグループや団体から、「教えてほしい」「お手伝いしてほしい」というお声がかかるかもしれません。

広島市まちづくり市民交流プラザが、ボランティアを依頼したいグループ・団

体とボランティア登録者の仲介を行い、双方の希望に合う活動の場をコーディネートさせていただきます。

ボランティア登録に必要なものは、あなたのやる気だけです。仕事や趣味等で得たあなたの知識や技術を、ぜひ「まちづくり」にお役立てください。

なお、まちづくりボランティア人材バンクは、政治・宗教・営利目的での登録並びに紹介申込は受けておりません。また、依頼があれば、紹介させていただくシステムです。登録された方に、もれなく活動の場をお約束するものではないことを予めご了承ください。

登録内容の一例をご紹介します。

●**学習・子育て**／子育て支援向け講演会、コミュニケーション能力を高めて人間関係を築く、乳幼児と保護者のふれあい（リトミック・メンタルケア）小中学生対象キャリア講演、心の参観日

広島鉄の文化・神川平助と国兼池 **足利 宏二さん**

たたら製鉄による鉄造りに高度な技術を駆使 現代の鉄造りにも生かされる、たたら製鉄の伝統的な技術

かつて広島市の中学校教諭を務め、定年退職後に「広島鉄の文化」について調べ、その内容、そして関連する「神川平助と国兼池」について人材バンク等で講演活動を行っているのが足利宏二さんです。

足利さんの父親が、生前に曾祖父の足利角藏さんが著した1933年作の『神川平助事蹟録』を手渡してくれたのがきっかけで、先祖の供養になればと思い調べ始めたそうです。かつて足利角藏さんの住まいが、神川平助の家の近くにあり、彼が苦勞する姿を見て『神川平助事蹟録』を記したそうです。

庄原市の国営備北丘陵公園内にある、国兼池は広島県で最も大きなため池で1953年に完成しました。その背景には江戸時代、専売制が国兼池建設に暗い影を落としていたことも、関係していると言われています。そもそもは、1813年、三次・恵蘇郡（現在の庄原市）の代官に就いた頼杏坪が、当時、広島藩が実施していた鉄の専売制に対して、広島藩は恵蘇郡を豊かにせよと言っても、恵蘇郡を貧しくしているのは広島藩だと税制の矛盾をすどく指摘。1855年に、広島藩より恵蘇郡に派遣された役人の神川平助が、慢性的な水不足に悩む恵蘇郡の農民を救済するために、国兼池の難工事を指導し始まり



▲著書「神川平助と国兼池」

ました。その後、工事は百姓一揆で神川平助が追放され、約80年の間中断。再開した後も、さまざまな問題乗り越えて完成しました。

足利さんは、平成26年に人材バンクに登録。市民交流フェ

スタや市内の公民館で、この神川平助と国兼池にまつわる講演活動を行っています。講演では、神川平助の時代を超えて完成した地域の宝でもある国兼池につい



▲足利宏二さん

てはもちろん、恵蘇郡が、古くから鉄の産地であり、紙（和紙）も地域の特産品であることから、関連する鉄造りの歴史、製鉄遺跡、鉄の販路を広げた北前船、さらには広島藩が実施した鉄の専売制などを調べて紹介。あまり知られていない、広島鉄の文化についても、多くの人たちに知ってもらいたいと活動しています。また、令和3年に自身が調べた内容をまとめた「神川平助と国兼池」を自費出版しました。「国兼池の建設は、環境破壊ではなく、持続可能な開発です。また国兼池の完成で、持続可能な農業を実現したことは画期的な事だとも言えます。これは、持続可能な社会のひとつの模範になる可能性も秘めています。神川平助、広島鉄の歴史など当時の時代背景を含め、地域の歴史を掘り起こすことで、今に至るまで、先人たちの苦悩を垣間見ることが出来ます」と足利さん。時の流れの中で起きた出来事を、未来に向けていかに伝えていくのか。足利さんは自身の調べたことが、地域の役に立つのであれば、今後も積み重ねていきたいそうです。曾祖父、父親が残した思いを胸に地域の歴史探訪に取り組む足利さんの活動に、大きなロマンを感じました。



▲講演会「神川平助と国兼池」の様子（庄原市）

- 社会・歴史**／観光案内ボランティア、平和について語り、カーブの歴史語り部、まちの地理や歴史を歩いて深く知る
- 自然・環境**／環境にやさしい遊び、自然素材を使ったクラフト、野山の自然を楽しみながら健康を考える
- 技術・ICT**／パソコンの指導全般、デジタル教材の作成指導、スマートフォンの便利な使い方
- 健康・家庭生活**／ストレスに強くなる心の健康づくり、中国の伝統的な気功指導、介護者支援、カラーセラピー、健康を考えた食生活、体と心のセルフケア、パン・ケーキ作り
- 趣味全般**／アートフラワーデザイン指導、フラワーデザイン・花遊び・花育、手染で小物づくり、手品の実演、マジック・レクリエーション、パネルシアター、絵手紙、川柳
- 市民生活**／災害ボランティア活動についての講演、中高年のいきいきライフ

- ドバイス、伝統文化を介護指導、大人のための朗読、いきいきとしたシニアライフの過ごし方
- 国際理解・語学**／国際理解・協力に関するワークショップ、国の文化・教育・社会について
- 芸術・文化**／古典芸能、フラダンス、ハワイアンバンド、落語・漫談、民族舞踊、軽音楽演奏
- スポーツレクリエーション**／野外活動、武道を主体とした護身術、レクリエーション
- まちづくり**／話し合いの場を円滑に進行させる役割について、生涯学習出前講座の企画・運営

ボランティア紹介・登録などのお申込・お問い合わせは…

広島市まちづくり市民交流プラザ ☎ (082)545-3911 ☎ (082)545-3838